

上田市教育委員会 4 月定例会会議録

1 日 時

平成 23 年 4 月 20 日 (水)

午後 2 時 34 分から午後 4 時 17 分まで

2 場 所

上田市教育委員会 (やぐら下庁舎) 2 階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	春原 秀一
委 員	城下 敦子
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

小市教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、浅野生涯学習課長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、清住体育振興係長、下村丸子地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、倉島第一学校給食センター所長、横尾第二学校給食センター所長、高野丸子学校給食センター所長、大滝上田図書館長、清水上田情報ライブラリー館長、足立中央公民館長、山崎西部公民館長、山崎城南公民館長、林博物館長、坪田上野が丘公民館長、海瀬塩田公民館長、綿内川西公民館長

- ・ あいさつ
- ・ 説明員紹介

< 協議事項 >

(1) 上田市心身障害児就学指導委員会委員の補充委嘱について

資料 1 により中村学校教育課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

< 報告事項 >

(1) 平成 23 年度教育委員会重点目標について

資料 2 により小野塚教育総務課長説明

春原委員

8 ページの具体的な取り組みにある「中学校 3 校で専科の教員」の配置は大変素晴らしいと思う。この専科の教科は何か。中学校に所属する区域の小学校へ行くのか。上田市中の全小学校へ行けるような体制をつくるのか。

巡回学習指導員も大変素晴らしい計画だと思う。不登校の子どもたちは放課後や夜間に学校へ行くことも多い。どの程度対応していくのか。また、対応は、全市的にできるのか、限られたところか。

中村学校教育課長

中学校 3 校に派遣する専科は、具体的には第三中、第四中、丸子北中学校で、いずれも数学の教員、講師である。市内すべての小学校ではなく 3 校の中学校区の小学校へ出向く。出向くのは市が雇用した教員ではなく、元々中学にいる数学・算数の先生が中学校区の小学校へ出向いて指導を行うことになる。より専門性の高い授業を受けられるなど、中学校から専科の先生が来て授業を行うことにより、中学の準備ができることを想定している。

二中については、昨年度まで 3 年間、県の配置を受けて小中連携により専任講師が清明小、塩尻小へ行った。今年から配当教員はつかないが、引き続き派遣できるとの話があるので、他の中学校区についても、これらの取り組みをもとに新しく始めた事業である。

巡回学習支援については、緊急雇用創出事業を活用して昨年度から実施している。今年も 2 名雇用しており、各学校へどんな時間にどんな形で入ってもらうか照会し

ているところである。学校により昼間又は夕方と要望に違いがあるので、できるだけ学校の要望に沿えるように配置したいと考えている。

春原委員

専科の教員の配置は、各中学校で中学生の授業をしながら空いたところで小学校へ行くのか。あるいは、純然たる小学校の専門教員として配置されるのか。

中村学校教育課長

今回雇用した3人の講師は、3校の中学で数学を教える。実際に小学校へ出向く先生はその講師ではなく、もともと三中、四中、丸子北中にある数学の教師が小学校へ行き、雇用した講師は穴埋めとして中学校で教えることになる。出向いた先生は、小学校の児童の様子を見ることができる。あるいは、小学校5、6年生が、教わったことのある先生に引き続き教えてもらうことも可能である。

西田委員長

予算措置は特別にあるのか。

中村学校教育課長

地域経営会議に諮っており、3年分の予算は確保できる予定である。

金子委員

今年は、22年度期末報告と23年度の目標が一緒に出てありがたい。期末報告の説明が重点的だったが、期末報告を踏まえて23年度はこうして目標を立てたという流れがわかる説明だとさらに良かったと思う。

例えば「上田市教育支援プラン」の推進と見直し「学ぶ意欲を育む授業」のところで、22年度は情報教育やICT支援員で学ぶ意欲を育む授業を目指したが、23年度は小中一貫の数学教員の配置となった経緯はどういうことか。

「きめ細やかな個に応じた指導」で、派遣回数150回とあるが、22年度と何がどう変わったのか聞きたい。また、カウンセリングマインド研修を昨年度に引き続き行うとあるが、同じような内容を続けるのか。

学校給食については、学校給食運営審議会から答申を受けて基本的な計画を作成するとあるが、中間報告や期末報告で評価がしやすいように答申をいつまでに受け、計画をいつまでに仕上げる等、具体的に書いておくと、今後の中間・期末報告がしやすいのではないか。

中村学校教育課長

情報教育に関しては23年度も引き続き行うが、教育支援プランにある4つの重点目標を推進していくうえで、年度ごとに実施内容の重点を変えている。昨年は情報教育の推進が中心であり、今年も協議会を開催しICT支援員を3人から4人に増やし充実させたが、本年度は、「学ぶ意欲を育む授業」において新規に中学校3校に数学専科の教員を配置した。

巡回学習支援員については、年度途中から開始したこともあり当初の目標に載せていなかった。緊急雇用創出事業補助金を使っているため、同じ方を長期に継続して雇用できず、1人は昨年の後期から継続、1人は新規である。今年も概ね昨年と同じ形でやっていく予定である。

カウンセリングマインド研修については、1年間ではすべての教職員に実施できないので、3年かけて一巡するように継続を考えている。この研修は、県の「笑顔で登校支援事業」を活用して2分の1補助金を受けており、県からは教員対象よりも、それ以外の相談員・支援員等を対象にした方がいいという要望や意見もあるので、その辺を中心に教員にも受けていただきたいと考えている。

また、具体的な期限を示さなかった項目もあり申し訳ない。今後、期限について明記できるものは記載していきたい。

城下委員

中間報告と期末報告があるが、22年度の間時点での報告はどうか。

小野塚教育総務課長

中間報告はホームページで公開されているが、この委員会の中では特に報告をしなかった。

城下委員

今までも中間報告はなかったということか。必要性がないということでしょうか。

小野塚教育総務課長

例年9月末の時点で全庁的にまとめてホームページに公開している。今後は、中間報告の段階でも委員会に報告していきたい。

城下委員

塩田中で学校支援地域本部事業を継続していくとあるが、コミュニティ・スクールの学校運営協議会の取り組みと連携させていく考えはあるか。目的はそれぞれ違うが、上手く連携して進める方向もあるのではないかと。

中村学校教育課長

今まで学校評議員制度が各学校にあったが、地域の方が学校の運営に対して意見を言い参画できる制度は、大まかに分けて3つある。それは、学校評議員制度、コミュニティ・スクール学校運営協議会制度、学校支援地域本部事業である。学校支援地域本部事業は、法的な裏付けはなく文科省が進めている事業で、地域の方やボランティアが学校に様々な支援をする形で始まった事業である。コミュニティ・スクールや学校評議員制度については法律の裏付けがあり、学校評議員は1人1人が学校に対して個別に個人の意見を言うことができ、それを学校運営に活かす。コミュニティ・スクールは、個人ではなく学校運営協議会の委員全体の総意で、学校運営を承認し意見をいうことができ権限も責任も強い。

両方やっている学校はないが、元々両方とも文科省の委託や補助を受けており、途中までコミュニティ・スクールの委託事業をやっていて、委託期間が終わったら支援本部事業に移行する等の例があるが、1つの学校で同時に運用することは考えづらい。

浦里小学校のコミュニティ・スクールは、学校運営協議会の委員が8名おり、お助け隊という組織もあった。塩田の地域支援本部事業では、地域の方にボランティア的な形で様々な支援をしていただいている。いずれが良いのかは、何とも言えない。地域の方が関わる点では同じなので、地域の特性や地域の要望を踏まえながら、一番よい制度を選択するべきだと考えている。

春原委員

11ページの具体的な取組項目及び方法の中に「情報の一元化を進めます」とあるが、現状とその課題は。

浅野生涯学習課長

生涯学習では市民向けの講座や事業等があるが、市長部局においてもそれぞれの課で情報を持っている。また、社会教育機関の中においても公民館等がそれぞれに情報を持っている状態であり、そういうものをひとつにして、より分かりやすく情報提供していきたい。

西田委員長

具体的にはどんな方法が考えられるのか。

浅野生涯学習課長

まずはホームページに一括で掲示したいと思う。

金子委員

この重点目標の資料の読み手は、誰を想定しているのか。学校教育関係は校長先生に配布し、生涯学習関係は教育委員会の担当者だけか。

小野塚教育総務課長

この表そのものは、校長会や各種生涯学習団体に出していない。市の広報ではもっと簡単な内容のものを出しているが、細かいことについては市のホームページをご覧くださいといった状況である。

金子委員

ホームページには、この表がこのまま出ていることでよいか。

小山教育長

基本的には、市の行政評価という意味合いを持っているから、この重点目標の読み手は市民である。中間報告は当然ここで報告されていると思っていたが、手順としては、中間報告は9月の教育委員会定例会に提出して承認していただきホームページに出すことがよい。あくまでも知らせたい相手は市民であり、従って市民が読んで分かるかどうかというところが一番の課題である。

西田委員長

市民満足度という言葉を再三使うが、具体的にこういうふうに市民満足度を測定したという事例はないか。これは、行政評価という部分だけに目が向いているのか。最終的には、市民満足度を得られているから行政評価もいはずだという論点になると思う。市民満足度をどう検証したのか。例えばアンケートを取るとか、ホームページに答えが返ってきたとか、何かそういうものがないと市民満足度ではなく自己満足度になる。

客観性を持った評価と、こういう形で満足度を測定したということは、いろんなところで求められると思う。我々の仕事では顧客満足度ということになるが。

ホームページに書いて答えを待つとか、フィードバックされたものを評価するのが本来ではないかと思う。アンケートは一般的な手法だが、公開の手段としてホームページとなると、アクセスなりアンサーなりがあるので考えていただきたい。

小野塚教育総務課長

市民満足度の考慮については、この重点目標の様式の中に謳い込まれており、これを意識したつくりになっている。しかし、その根拠はアンケートや提言・意見をいただかないと分からない部分があり、実際には難しい面もあるが、積極的な情報

発信をしながら意見を求めていきたいと思っている。

西田委員長

たぶん、満足したという答えは返ってこないだろう。不満足に関してはいろいろな意見もあると思うが、それもアクセスがあったひとつの情報である。

城下委員

ホームページという言葉が盛んに出ているので言うが、こういう時期にあるにもかかわらず耐震化の状況のグラフが古い。更新したほうがよい。

小山教育長

同様のことだが、平成22年度末の耐震補強について、耐震診断は全部実施し耐震補強をこれだけやってきた結果、耐震補強の耐震化率はどうなっているか。23年度にこの補強をしていくと耐震化率はどの位になるのか。これは今直ぐ数字が出ると思うので、やはり数値を入れた方がいい。

小野塚教育総務課長

耐震補強については、平成21年3月25日現在の調査結果がホームページの中に出ている。何故それを更新しないかについては、この3月に耐震診断すべきものが全て終わったためはっきりした数値を載せようと思ったことに加え、診断した中にはこのまま数値を出して良いかどうか、取り方によっては市民に不安を与えかねない結果もあるため、公表の仕方に検討の余地があり、敢えて更新しないでいる。進捗率等についての公表は直ぐできるので考えたい。

西田委員長

上田市はハザードマップを公表しているが、似たような感じだと思う。地価が下がるとか、昔はかなり抵抗があったようだが、そうした理由だけで公表しないことの重大性の方が問われる時代になってきている。ハザードマップを見ると、かなり詳細なマップになっているので、ある意味ではそうした面の責任もある。耐震診断結果は、予算措置や改築の必要度を理解してもらおううえでも、有効な武器にすることができないのではないかと。

金子委員

読者が一般市民であるならば、もう少し分かりやすく簡潔にしてほしい。紙面が黒くなるほどびっしり書かれたものを、どれだけの市民が読む気になるのか。また、専門用語が多数あり、実際にはどういうことなのか、市民にはわかりづらい表現が

多い。

小山教育長

ホームページに開示するのは、13ページだけか。 も全部出しているのか。

小野塚教育総務課長

全部出している。13ページの一覧表も を入れて公表していた。中間のときも中間報告を入れた状態で公表している。

小山教育長

これは教育委員会だけの問題ではないが、もう少し考えなければいけない。

西田委員長

染屋台の総合運動場の場所は今までの市営球場で、整備内容を詳しく知らないが、駐車場はどうなっているか。

佐藤体育課長

現在、グラウンドと駐車場の整備についてほぼ終わりとなっている。敷地内西側の部分を駐車場としており、正確な数値は即答できないが、60台位の駐車ができる。

西田委員長

取り付け道路、進入路はどうなっているか。

佐藤体育課長

以前と同じ東側からの進入路を整備している。

西田委員長

今年の10月から使用開始とのことだが、いろんな意見を取り入れ、よろしくお願いたい。良い中間報告を期待している。

全委員 了承

(2) 学校支援地域本部事業について

資料3により浅野生涯学習課長説明

城下委員

こういった事業は素晴らしい。こうした制度があるから「地域の皆さんご自由にどうぞ」ではなく、有効活用して広めていけば先生も生徒もためになる取り組みだと思う。東御市はこの事業が盛んであり、単純に数が多ければいいというものではないのかもしれないが、校数も関わるボランティアの人数も多い。上田市も教育委員会として広げていく取り組みをしていただきたい。

浅野生涯学習課長説明

そのとおりだと思う。今後、支援もいただきながら積極的に取り組んでいく。

小山教育長

5月の上小市町村教育委員会連絡協議会の研修会で、上田市の学校支援地域本部事業報告をする。東御市からも資料を提出してもらおう予定である。当日の研修資料を見ればわかると思うが、東御市と塩田の事業では取り組みの内容がずいぶん違う。

塩田の取り組みは、かなり苦労している。普通、学校に対して学習支援が入るとき、大体の教員は嫌がるものであるが、そこをいろんな折り合いをつけながら実施している。しかも、例えば抹茶の体験学習とか、お寺巡りをしながらの座禅の体験だとか、地域の方に文化財の説明を受けるとか、いろいろな人がいろいろな行事の中で日常的に関わっているのだから、かなり広範囲な事業である。ここで成功したからといって、すぐにほかに転用できるというものではない。他でやる場合には、どういことができるかしっかりと考えないと簡単には広げられないと思っている。学校にも地域にも、相互に負担の大きな事業である。

西田委員長

地域の特性というものがあるのか。

小山教育長

地域の特性もあるが、一番は優秀なコーディネイターが必要である。また、学校側は教頭がどのくらい事業を理解して、窓口になってやってもらえるか。

春原委員

立派な報告書ができて良かった。4、5ページにある職員・生徒の欄では、約1割の職員が無回答であるが、それをどう受け止めるか。生徒の方でも49%が「あまり変化が見られない」と回答している。これだけを見ると、この事業がどうだったかと感じる。実際は、もっと成果が出ていると思う。

職員に対し「ボランティアの参加により生徒の様子に変化が見られたか」という項目で聞くと、変化は1つのことで変わるものではなく総合的に変わっていくので、

ボランティアだけを理由に断言することは難しい。生徒に変化が見られたことはどんなことかと箇条書きに書くようにアンケートをすれば、もっと素晴らしい回答があると思う。生徒も同様に、ボランティアが学校に来て嬉しかったこと楽しかったことはどんなことがあったか、総括的ではなく1つ1つ具体的に書けるものを集約すると良かったのではないか。

これだけを見ると、学校職員は無関心なのか嫌なのか、職員の1割が無回答の現状をどう受け止めればいいのかということになる。生徒は実際もっと喜んでいるのではないか、効果があったのではないか、それ示すアンケートとはどうあればいいのか検討すると、また違った表現が生まれてくるのではないかと感じた。

小山教育長

アンケートにはもう少し効果的なやり方があるとも思うが、実際ボランティアに入っている方も学校に不満を持っていた。学校側もなかなか上手くいかない部分もある。特に塩田中学校は、この間校舎の建替えが同時進行しており学校側も課題がたくさんあったので、このアンケートがそのまま塩田中の抱えている課題であると考えた方がいいのではないか。むしろ、そのことを隠さずに掲載しており、課題があるからその課題を認識して前進できる。

例えば、ボランティアの方たちが緑化に行くのに、生徒は緑化活動に関わらないというのが大きな不満だった。ところが、2時頃にボランティアの人たちが学校へ行っても、生徒は授業中で関わられるわけがない。そうした点は、実際にやる中で、例えば土曜日の活動が出てきたり、放課後に一緒に活動する場面があったり、少しずつ修正されてきた。まだ、様々な課題はあるが、是非ビデオで生徒が活動する場面を見てほしい。

春原委員

ボランティアの皆さんの話を聞き、いろんな課題があると思った。現状をどうとらえるか、このアンケートがそのまま出していくと大変だと感じた。事業の良さと課題をしっかりとつかんで、今後に生かすのが大事である。生涯学習課として、そうした面を細かく把握できるアンケートがあればよい。

浅野生涯学習課長

アンケート方法を含めて、今後より効果が把握できるよう検討していく。

金子委員

お金もかかると思うが、できれば継続的に報告書を出すことが良い。

浅野生涯学習課長

市の単独予算であり、カラーにはならないと思うが計画して出していきたい。

全委員 了承

(3) 「子どもとメディアについて考えましょう」について

資料4により浅野生涯学習課長説明

西田委員長

小中学校全校に配布か。生徒たち全員に配布されるとの理解でよいか。

浅野生涯学習課長

そうである。

全委員 了承

(4) 生涯学習シンポジウム事業について

資料5により浅野生涯学習課長説明

城下委員

謝礼の内訳は。全額が村山さんへの謝礼か。

浅野生涯学習課長

全て村山由佳さんへの謝礼である。

城下委員

90名のお手伝いには謝礼は出ていないのか。

浅野生涯学習課長

ボランティアである。

城下委員

30代が27%と高いが、テーマを誤解して来たのか。

浅野生涯学習課長

誤解して来たかどうかはわからないが、関心はあったと思われる。

全委員 了承

(5) 行事共催等申請状況について

資料6 - 1により小野塚教育総務課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料6 - 2により中村学校教育課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料6 - 3により浅野生涯学習課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料6 - 4により土屋文化振興課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料6 - 5により清住体育振興係長説明

西田委員長

150～200とあるが、今年は特に多いのか。

清住体育振興係長

例年だと共催については大会開催の1カ月前か2カ月前に申請ということで、最終的に年間で150～200位あるということ。

全委員 了承

<その他>

(1) 公民館だより

資料公民館だよりにより足立中央公民館長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料山本鼎版画大賞展により林博物館長説明

質疑意見なし

全委員 了承

春原委員

挨拶

西田委員長

閉会